

第6学年 国語科の実践

- 1 単元名 いろいろな立場から課題を分析して話し合おう
教材名 『パネルディスカッションをしよう』

2 単元目標

- テーマについて関心をもち、パネルディスカッションに参加しようとする。
- 学級として話し合いたいテーマを決め、それに沿った提案を選んで、提案内容を深めるとともに、提案に必要な情報を取捨選択することができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題…子どもが解決したい問題を持ち、友達とひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて…子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ…「仲間への理解、自立する自分」
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

話をしっかり聴いていないため、次の行動に移れなかったり、今説明したばかりのことを尋ねたり、理解が不十分になってしまったりする子どもが少なからずいる。「まずは聴く」ことの大切さを指導してきた。また、教師の発問や友達の考えに対して黙って聴いているだけではなく、自分の考えと比べながら聴いたり、わからないことを訊き返したり、思ったことを伝えたりするよう促している（「聞く」から「聴く」・「訊く」へ）。友達の考えに対するあいづちやよいつぶやきを取り上げたり褒めたりすることで、少しずつではあるが自分の思いをつぶやくことができる子どもが増えてきた。

授業中の発言は、答えが明らかなものには意欲的だが、自分の考えを述べたり説明をしたりという場面になると少数になり、固定化しがちである。また、比較的学力の高い子どもたちが慎重なためか、あまり進んで発言しない。「教室は間違ってもよいところ」ということを日々確認しながら学習を進めている。後期から取り組み始めたスピーチ活動では、授業中より進んで感想を言おうとする子どもが多い。場の設定を工夫しながら自分の考えを自分の言葉で表現することに慣れるようにしていきたい。

わからないことをペアやグループで教え合ったり、友達の意見がわかりにくかったときには言い換えさせたりすることで、少しずつ関わり合いは見られるようになってきた。友達の考えを大切にノートに記す子どもも見られるようになってきた。しかし、全体での話し合いでは、話し手の相手意識や聞き手の受容的・共感的姿勢にまだまだ課題がある。また、友達の意見につなげて考えることも不十分であり、ひびき合いには至っていないのが現状である。

4 単元と指導

(1) 単元について

本単元では、学習指導要領第5学年及び第6学年の「A話すこと・聞くこと」の内容「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」、「エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」、「オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」を目標としたものである。

子どもたちは昨年度、話し合いの形態としてディベートのやり方を学習している。今年度は新たにパネルディスカッションという形態を学習する。パネルディスカッションでは、自分たちが関心を寄せるテーマについて計画的に話し合い、見方や考え方を深めることをねらいとしている。これまでに経験してきた話し合いとは趣が異なるだけに、有意義な話し合いの場にするためには、計画的な準備が必要である。

パネルディスカッションは、互いに異なる立場や考えのパネリストの提案とパネリスト同士の意見交換が展開され、その提案や意見交換の内容に触発されて、さらに、フロアを交えた意見交換が活発になる。そのためにも、どのような提案をするか、問題として最もクローズアップしたいのはどこかなど、できる限り具体化しておくことが大切であると考える。

(2) 指導について

パネルディスカッションという話し合いの形態に挑戦するのは、子どもたちだけでなく、私自身も初めてである。そのため、パネルディスカッションを有意義なものとするためのポイントを3つ考えた。

まず1つ目は、「テーマを何にするか」である。子どもたちが考えたテーマは、「みんなが率先してあいさつするようになるにはどうすればよいか」「みんながルールを守るようにするためにはどうすればよいか」「みんなが給食を残さず食べるにはどうすればよいか」などの学校生活に関するものと、「地域の環境をよくするために自分たちにできること」「ごみを減らすにはどうしたらよいか」など環境に関することに大別できた。

テーマを決めるための話し合いでは、①いろいろな立場から意見が出せるか、②資料が準備しやすいか、③パネルディスカッションをして、前より考えが深まるか、という点に照らし合わせて考えた。総合的な学習では、ちょうど後期の活動のテーマが「みんなで守ろう 地球の未来」に決まり、これから具体的にどんな活動をしていくか決めていく段階であったため、総合的な学習と絡めて話し合っていくことが有意義だという子どもの意見にみんなが賛同し、パネルディスカッションのテーマは「環境を守るために、総合学習で何ができるか」に決まった。

パネルディスカッションを有意義なものとするための2つ目のポイントは、「パネリストを誰にするか」である。提案内容が似ている者同士でグループを作るが、これまでのグループ活動での経験から、メンバー構成が大事であることは子どもたち自身も気付いているため、提案内容が似ている者同士集まった後で、メンバー構成という点から修正を加えた。

パネルディスカッションを有意義なものとするための3つ目のポイントは、「準備を充実させること」である。具体的なイメージをもち、先を見通して考えていくことは、子どもたちにはまだまだ難しい。そのため、「その提案は実現可能な提案か」「どんな資料が必要か」「その資料はわかりやすく説得力があるか」などの視点を示しながら、準備にしっかりと関わっていく必要があると考えている。

本時であるパネルディスカッション本番では、環境を守るために、総合的な学習で何ができるかというテーマについて話し合う。そこで話し合われたことは、これからの総合的な学習の時間に取り組む具体的な活動である。また、パネルディスカッションは5年生で経験したディベートとは違い、意見を対立させることが目的ではなく、意見交換をしながら、提案の価値や問題点を浮き彫りにしていくものである。よって、関心をもって互いの提案を聴き合い、提案の価値や問題点に気付く姿を本時での「ひびき合う姿」としたい。

5 単元構想 第6学年国語科 いろいろな立場から課題を分析して話し合おう

『パネルディスカッションをしよう』 【7時間】

単元 目標

- テーマについて関心をもち、パネルディスカッションに参加しようとする。
- 学級として話し合いたいテーマを決め、それに沿った提案を選んで、提案内容を深めるとともに、提案に必要な情報を取捨選択することができる。

国語科 5年生の学習との関連

- 自分の考えを提案しよう
「学校を百倍すてきにする方法」
・提案することを決め、理由や実施効果をまとめることができる
- 立場を決めて討論をしよう
「より良い考え方はどっち？」
・討論の方法について理解し、立場を決め、必要な情報を集め話し合えることができる

総合的な学習との関連

- 「みんなで守ろう 地球の未来」
- 環境問題について調べてみよう
地球温暖化、海面上昇、オゾン層破壊、赤潮、水質汚染、ごみの増加、食料問題、森林破壊、砂漠化、酸性雨、大気汚染・・・
- 自分たちにできることを考えよう

日常生活との関連

- 節電・節水の問題
- リサイクルの経験
- ごみの分別

「パネルディスカッション」って何だろう ①

- ・代表委員会についての話し合いみたいなものかな
- ・難しそうだな ・何について話し合うべきかな
- ・総合と関連して話し合ったらどうかな
- ・総合の具体的な活動について話し合おう

- ・総合的な学習と関連させることで、興味をもって取り組めるようにする

意見が似ている者同士でグループをつくり、提案内容を話し合おう ①

- ・リサイクルについて提案したいな ・食料問題もあったよ
- ・温暖化対策で緑を増やすことを提案したらどうかな
- ・ごみを減らす方法についてはどうだろう
- ・分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかな

- ・提案内容が具体的で実現可能か検討させる
- ・提案内容や理由はあらかじめ伝え合っておき、互いの提案に対する質問や意見を考えさせておくことで話し合いが充実するように支援する

パネルディスカッションに向けて準備をしよう ③

- ・だれがパネリストをする？ ・どんな資料があるといいかな
- ・提案内容を整理しよう ・他のグループは、どんな提案をしてくるかな
- ・予想される質問には応えられるようにしておこう

- ・パネルディスカッションまでの予定を知らせ、見通しをもって取り組ませる
- ・第6時に入るまでに日数や時間を取り、十分に準備ができる時間を確保する

「環境を守るために、総合学習で何ができるか」

パネルディスカッションをしよう ①【本時】

<ごみを減らす>	<緑を増やす>	<節電・節水>
<食料を大切に使う>	<リサイクル>	<楽しみながら学ぶ>

- ・提案の価値や問題点をはっきりさせるようにする

- ・自分たちの提案をわかりやすく伝えよう
- ・提案をしっかり聴いて、わからないところは質問しよう

パネルディスカッションをふり返ろう ①

- ・いろいろな提案が出てきたな ・分かりやすく伝えるのは難しいな
- ・他のグループの提案を聞いて、なるほどと思ったよ
- ・自分たちにもできそうなことがいろいろあったな
- ・自分たちにできることを総合でやってみよう

- ・実現可能な提案をこれからの総合的な学習に生かしていく

6 本時について

(1) 本時目標 関心をもって互いの提案を聴き合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。

(2) 本時展開

学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】			
1 本時のめあてを確認する。 2 パネルディスカッションを行う。 ① 司会によるテーマ・パネリストの紹介 ② パネリストの提案 ③ 提案に対する質疑応答 ④ 意見交換 ⑤ (まとめの準備) ⑥ パネリストによるまとめの発表 ⑦ 司会によるまとめ 環境を守るために、総合学習で何ができるか <table><tr><td> <ごみを減らす> ・ 海岸のごみ拾いをする ・ ポスターを作って呼びかける ・ 段ボールコンポストを作る <食料を大切に> ・ ポスターを作って呼びかけをする ・ 一口おかわり活動 ・ エコ料理レシピ集を作って配る </td><td> <緑を増やす> ・ わりばしの使用をやめる ・ グリーンカーテン用の種を配る ・ 植林体験活動に参加する <リサイクル> ・ ポスターを作って呼びかける ・ その他紙の袋を作って配る ・ アルミ缶を集め、換金し募金する </td><td> <節電・節水> ・ 節電見回り隊、消灯呼びかけシール ・ ため洗い (歯磨き・牛乳パック・雑巾) ・ 回覧板で節電・節水方法を知らせる <楽しみながら学ぶ> ・ カルタやすごろくを作って学ぶ ・ カルタやすごろくを作ってプレゼント ・ エコ工作 </td></tr></table>	<ごみを減らす> ・ 海岸のごみ拾いをする ・ ポスターを作って呼びかける ・ 段ボールコンポストを作る <食料を大切に> ・ ポスターを作って呼びかけをする ・ 一口おかわり活動 ・ エコ料理レシピ集を作って配る	<緑を増やす> ・ わりばしの使用をやめる ・ グリーンカーテン用の種を配る ・ 植林体験活動に参加する <リサイクル> ・ ポスターを作って呼びかける ・ その他紙の袋を作って配る ・ アルミ缶を集め、換金し募金する	<節電・節水> ・ 節電見回り隊、消灯呼びかけシール ・ ため洗い (歯磨き・牛乳パック・雑巾) ・ 回覧板で節電・節水方法を知らせる <楽しみながら学ぶ> ・ カルタやすごろくを作って学ぶ ・ カルタやすごろくを作ってプレゼント ・ エコ工作	・ 司会、パネリストと予め時間配分について打合せをしておく。 ・ グループの発表方法に応じて、必要な物を準備しておく。 ・ 児童が意見をメモできるように、ワークシートを配付する。 ・ パネルディスカッションの流れが分かるように、流れを掲示しておく。 ・ 自分が調べたことと比べながら提案を聴き、質問したり意見を言ったりすることができるように助言する。 ◆計画通りに話し合いを進めている。(司会者) ◆自分の立場や考えを明確にして話したり、資料を用いたりして効果的に発表している。(パネリスト) ◆他のパネリストやフロアの質問や意見をもとに、自分の考えを広げたり深めたりしている。(パネリスト) ◆メモを取りながら聴き、質問や意見を述べている。(フロア) ◆それぞれのパネリストの意見を聴き、自分の考えを広げたり深めたりしている。(フロア)
<ごみを減らす> ・ 海岸のごみ拾いをする ・ ポスターを作って呼びかける ・ 段ボールコンポストを作る <食料を大切に> ・ ポスターを作って呼びかけをする ・ 一口おかわり活動 ・ エコ料理レシピ集を作って配る	<緑を増やす> ・ わりばしの使用をやめる ・ グリーンカーテン用の種を配る ・ 植林体験活動に参加する <リサイクル> ・ ポスターを作って呼びかける ・ その他紙の袋を作って配る ・ アルミ缶を集め、換金し募金する	<節電・節水> ・ 節電見回り隊、消灯呼びかけシール ・ ため洗い (歯磨き・牛乳パック・雑巾) ・ 回覧板で節電・節水方法を知らせる <楽しみながら学ぶ> ・ カルタやすごろくを作って学ぶ ・ カルタやすごろくを作ってプレゼント ・ エコ工作		
3 本時の話し合いのふり返りをする。				

7 実践を終えて

パネルディスカッションという話し合いの形態が教科書に登場したのは初めてであるため、私自身も子どもたちも手探りで、まずはイメージをつかむところからスタートした。

パネルディスカッションを有意義なものとするためのポイントの1つ目として考えた「テーマを何にするか」という点では、総合的な学習の具体的な活動内容を話し合うことにしたことが功を奏し、子どもたちにとって話し合うべき必然性のある問題となっていた。

2つ目のポイントである「パネリストを誰にするか」という点では、提案内容が似ている者同士でグループを作るだけでなく、メンバー構成の面からも修正を加えたため、どのグループも順調に準備を進めていた。

3つ目のポイントである「準備を充実させる」という点では、やはりパネルディスカッション本番までの間を空ける時間設定の工夫が大事だった。また、提案内容や資料については「その提案は実現可能な提案か」「どんな資料が必要か」「その資料はわかりやすく説得力があるか」などの視点から何度も助言をし、修正を加えていったため、有意義な話し合いになったと感じている。

○成果と課題

<成果>

- ・ テーマを総合的な学習と絡めて設定することで、子どもたちにとって話し合うべき必然性のある問題となった。
- ・ 一人ひとりが自分なりの考えをもって話し合いに臨むことができた。
- ・ 話し合った内容を、実際に総合的な学習で実行に移すことができた。

<課題>

- ・ パネルディスカッションという話し合いの形態には、まだまだ不慣れであるため、経験を積んでいく必要がある。
- ・ 自分の考えを「読む」のではなく、自分の言葉で「話す」「伝える」ことができるようにしていきたい。